

事業計画及び成長可能性に関する事項

2026年 6月26日
ブライトパス・バイオ株式会社

Copyright © BrightPath Biotherapeutics Co., Ltd.

BrightPath 
Biotherapeutics

本資料の取扱いについて(免責事項)

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 本資料は、投資者に対する情報提供を目的として、経営情報や財務情報等の情報及び将来の事業計画等を記載したものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。実際に投資を行う際には、ご自身のご判断で行うようお願いいたします。
- 研究開発中の医薬品に関する情報を記載しておりますが、広告宣伝、医学的アドバイスを目的にしているものではありません。
- 本資料に記載された情報につきまして、予告なく変更される可能性があります。本資料に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。
- 本資料の更新は毎年6月下旬に行う予定です。

拠点および沿革



本社事業所

東京都千代田区麹町2-2-4
麹町セントラルビル7F



本店／川崎創薬研究所 細胞技術研究所

神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-22
ライフイノベーションセンター



2003年5月
福岡県久留米市に当社設立

2013年8月
ITK-1 第III相臨床試験開始

2016年8月
川崎創薬研究所を開所

2006年1月
ITK-1去勢抵抗性前立腺がん対象第I相臨床試験開始

2015年10月
東京証券取引所マザーズへ上場
GRN-1201 メラノーマ対象米国第I相臨床試験開始

2018年4月
理研のiPS-NKT開発プロジェクトに参画

2020年6月
iPS-NKT細胞療法(BP2201)の医師主導治験開始

2022年5月
HER2 CAR-T細胞療法(BP2301)の医師主導治験開始

2022年11月
理研に対しiPS-NKTに関わる全世界での
独占的開発製造販売権の導入オプション行使

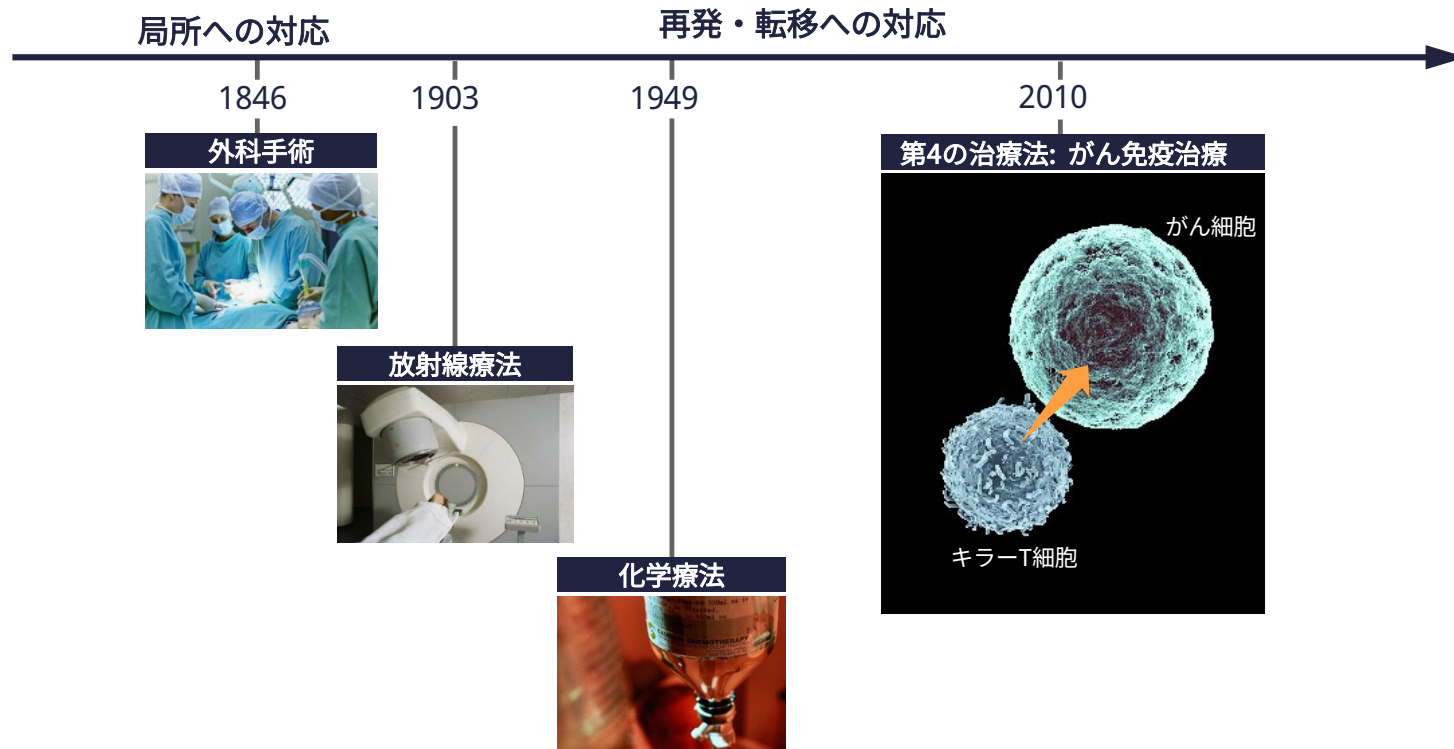
2023年5月
会社創立20周年

ビジネスモデル

開発領域

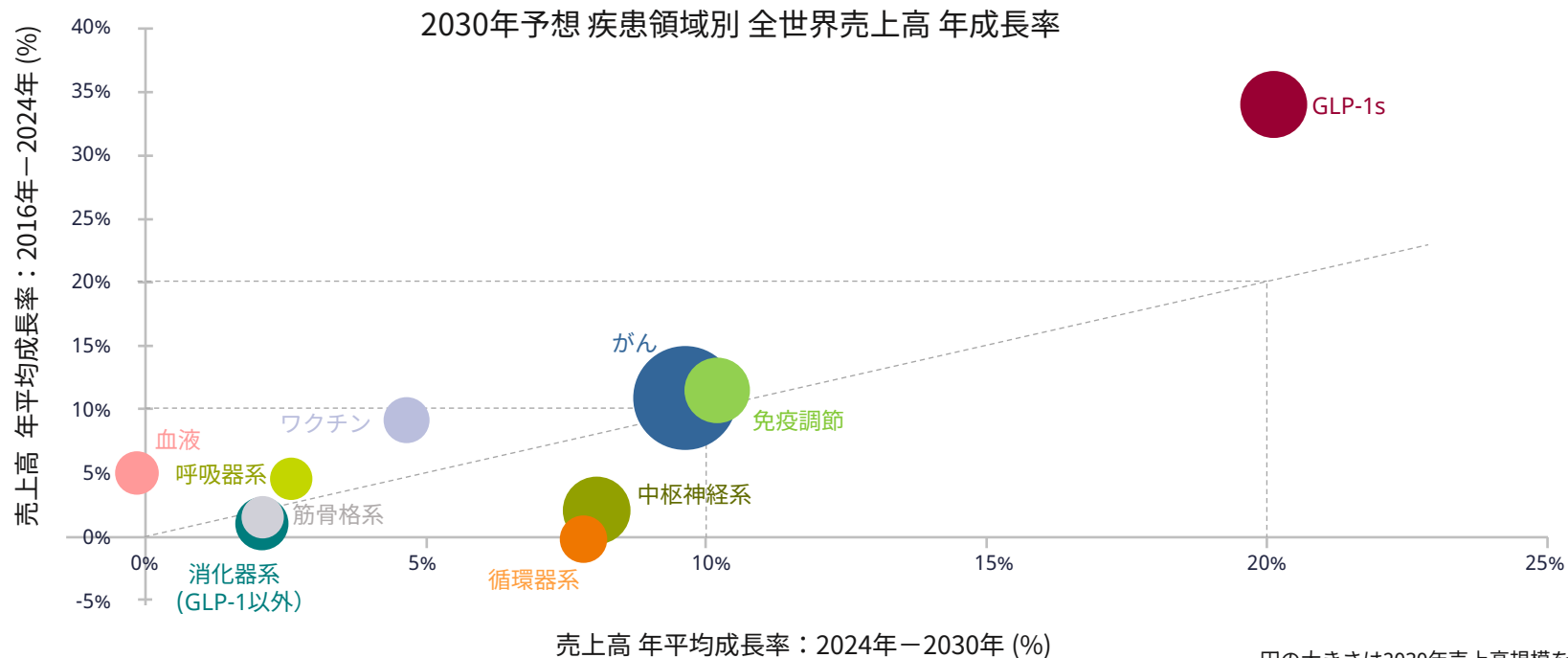
■ がん治療薬の開発に特化

がん治療法の拡がりの歴史



開発領域の市場規模と成長率

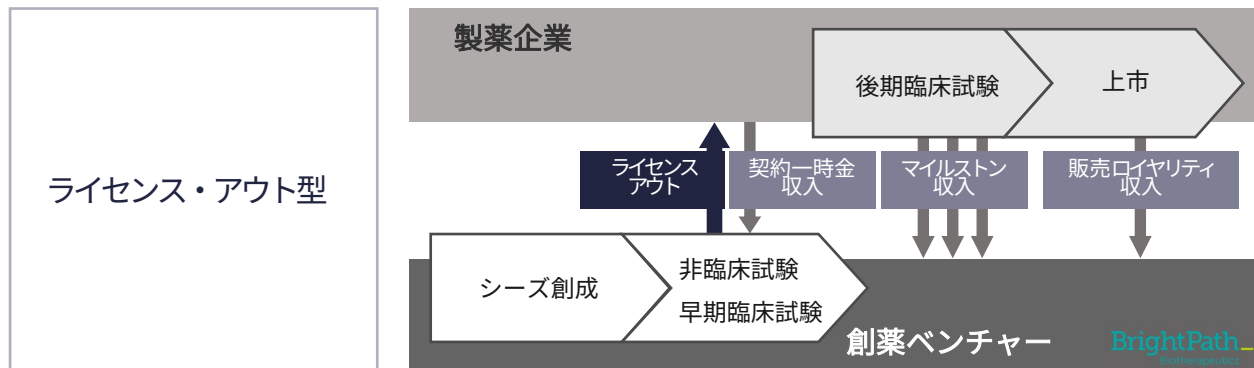
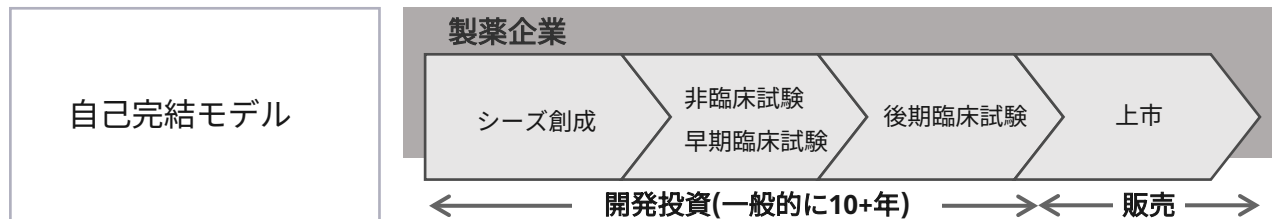
がん治療薬の開発は引き続きハイペースで進められている



Evaluate Pharma, WORLD PREVIEW 2025 (July 2025)

ビジネスモデルと収益構造

- 製薬企業への早期開発段階でのライセンス・アウトを出口とする事業モデルで、現在は開発投資先行期間



新薬開発の途中で、すべてを自己完結できる製薬企業に、開発製造販売ライセンスを渡すことによって、開発投資先行期間を短縮し早期収益化

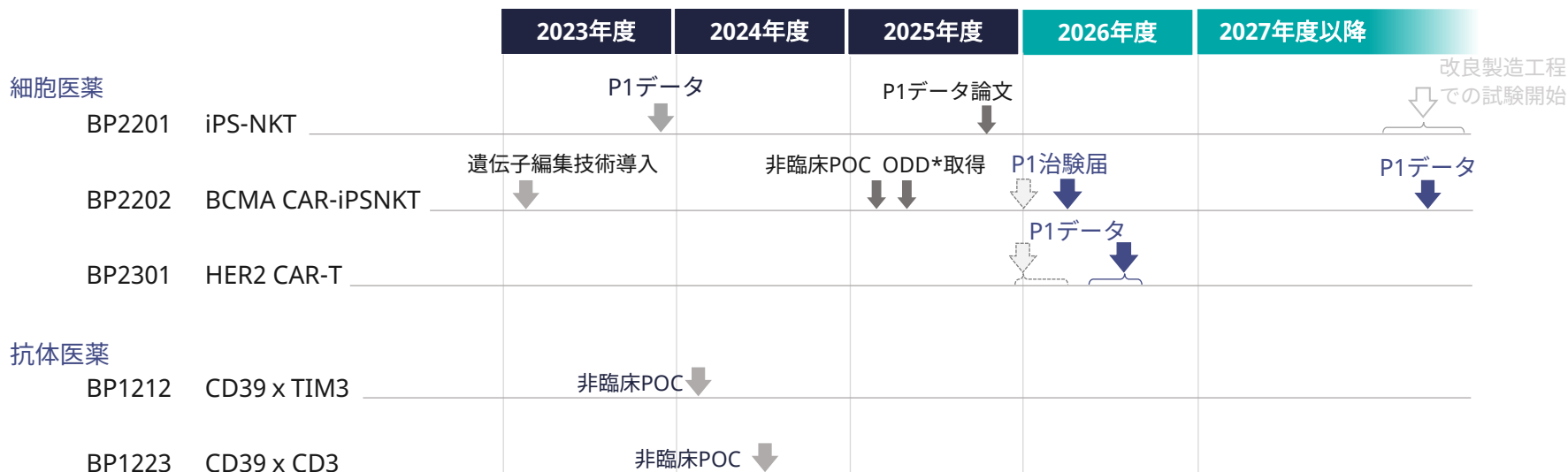
- 中長期的にライセンスアウト型から自己完結型へ段階的に移行

開発の進捗状況

イベント

2025年度ハイライト:

- ① BCMA CAR-iPSNKT (BP2202) の米国臨床試験の治験申請(IND)の準備を整えた
- ② HER2 CAR-T (BP2301) の臨床試験 (信州大学附属病院での医師主導治験) を継続中
- ③ 抗体医薬パイプライン(BP1212/BP1223) の導出活動を継続中



*ODD: 米国オーファンドラッグ指定

開発パイプラインの概要

BP2202 (他家iPS細胞由来BCMA CAR-NKT細胞療法)

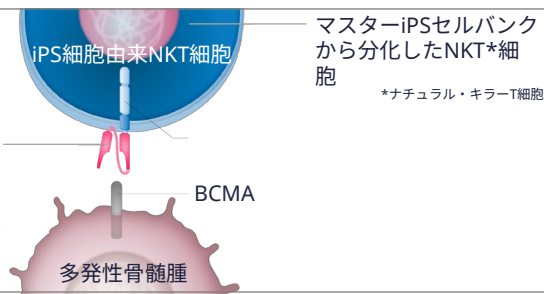
iPS細胞から作製するBCMA CAR-NKT細胞療法

- 2026年度中に米国臨床試験を開始予定
 - ・ 対象：多発性骨髄腫
 - ・ 施設：米国多施設

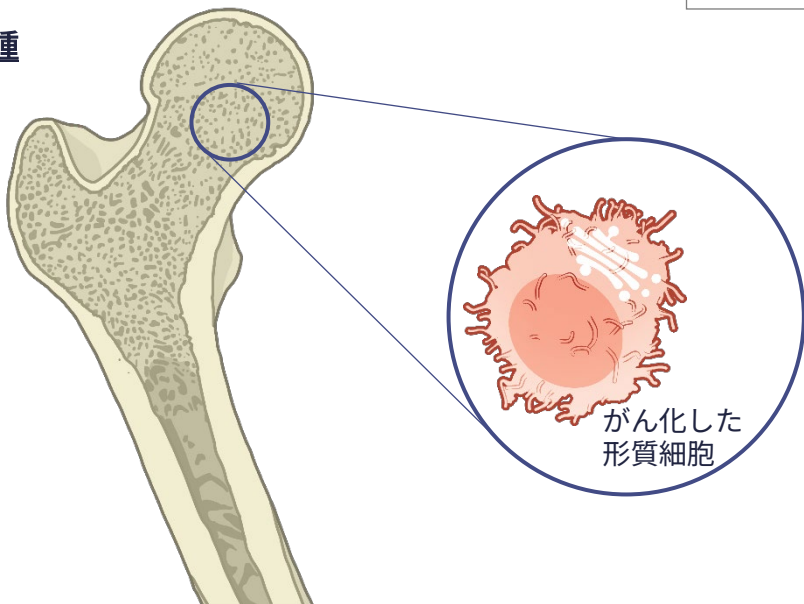


BCMA CAR-NKT細胞

②BCMA標的CAR (キメラ抗原受容体)
多発性骨髄腫に高発現するがんの目印:BCMA
抗原を認識し結合する

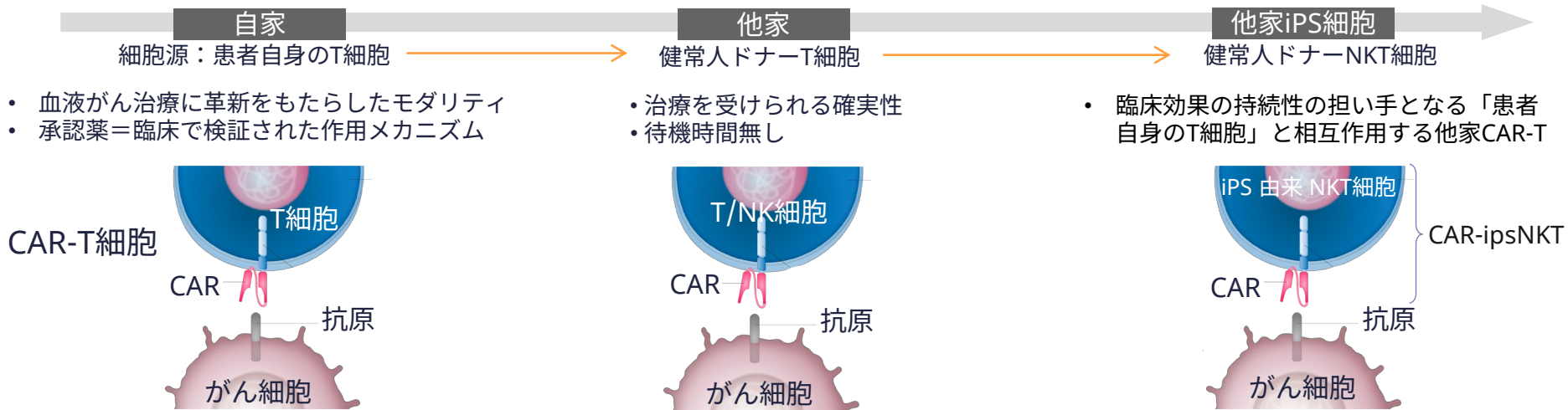


多発性骨髄腫



依然として根治が難しい血液がん

開発の目的：持続的な臨床効果を有する他家CAR-T細胞療法の開発



- 血液がん治療に革新をもたらしたモダリティ
- 承認薬＝臨床で検証された作用メカニズム

- 治療を受けられる確実性
- 待機時間無し

- 臨床効果の持続性の担い手となる「患者自身のT細胞」と相互作用する他家CAR-T

承認薬（血液がん領域）



自家CAR-Tの課題

- 品質が採血時の患者T細胞に依存
- 長い待機時間
- 製造コスト

解決すべき課題

先行開発CAR-Tの課題

- 投与された他家細胞が患者体内で持続しない
- 臨床効果の持続性欠如

解決すべき課題

解決策

- 投与されたCAR-ipsNKT細胞によって患者体内で活性化された患者自身のキラーT細胞が持続

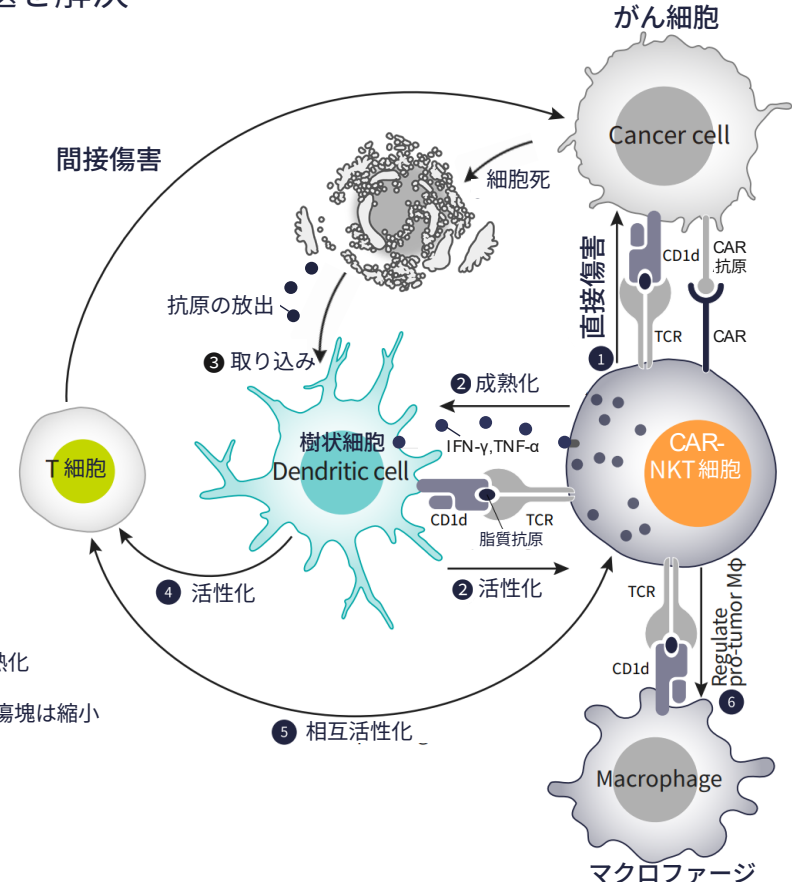
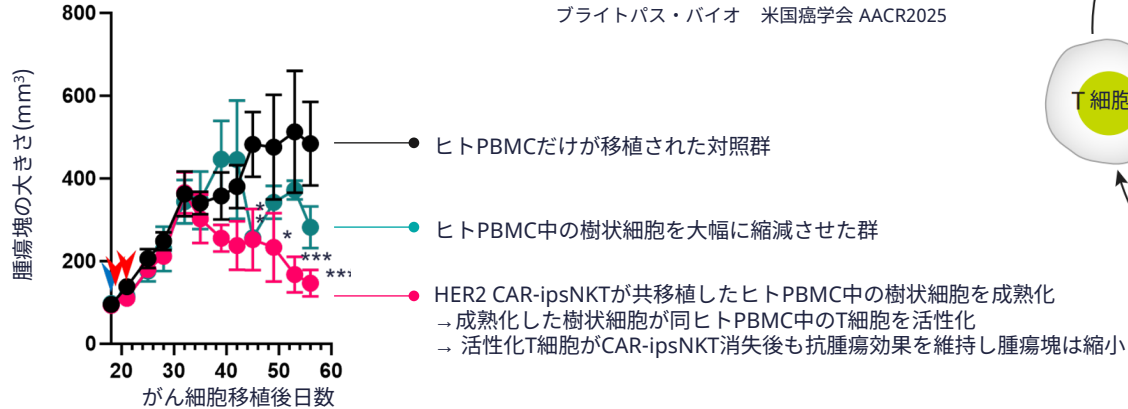
BP2202 (続)

BP2202の開発コンセプト: NKT細胞を用いることによって課題を解決

- 他家CAR-T細胞療法のT細胞として、通常のT細胞とは異なる特性をキラーT (NKT) 細胞を用いる
- CAR-NKT細胞にがん細胞を直接傷害させるとともに、かつNKT細胞の患者体内の免疫細胞を活性化させる機能を活用して、2次的ながん細胞傷害を引き出す

CAR-ipsNKT細胞による抗腫瘍性T細胞活性化を確認した担がんマウスモデル試験

ブライトパス・バイオ 米国癌学会 AACR2025



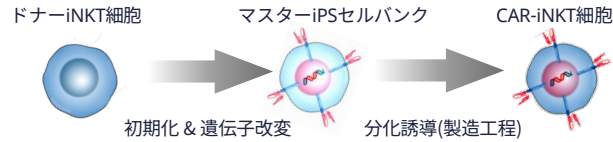
BP2202 (続)

iPS細胞から作製するBCMA CAR-NKT細胞療法

- 2026年度中に米国臨床試験を開始予定
 - ・ 対象：多発性骨髄腫
 - ・ 施設：米国多施設



治験薬準備状況



■ 達成
□ 今後

2025.3

2026.5

	1合目	2合目	3合目	4合目	5合目	6合目	7合目	8合目	9合目	10合目
--	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

マスターセルバンク

適格ドナー

iPS細胞株取得

遺伝子改変

取得

品質試験

移管用製造工程確立

スケールアップ

製造工程移管・開発

治験薬製造

Phase I 臨床試験

2024
下半期2024
下半期2025
上半期2025
上半期2025
下半期2025
下半期

製造移管

GMP適合

製造工程アップグレード

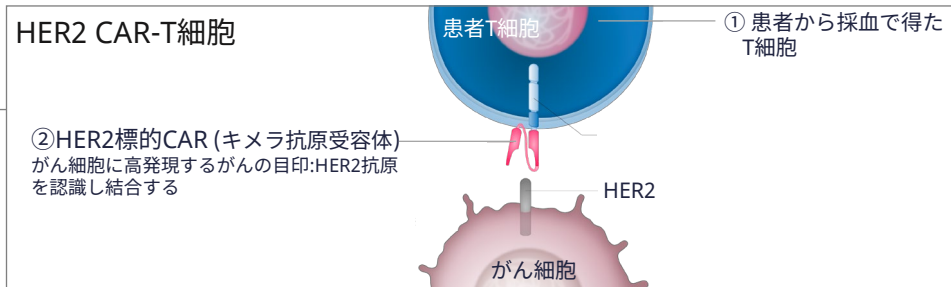
試製造完了

2026
1Q

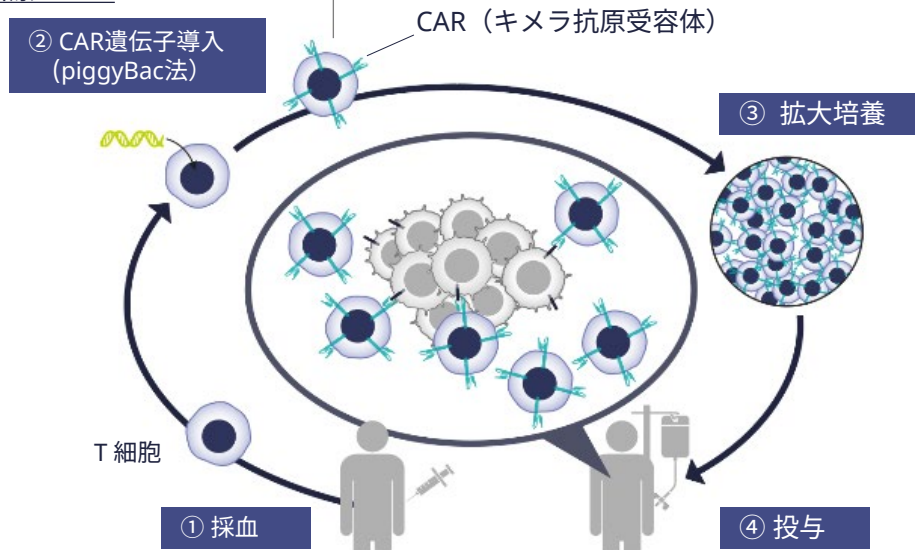
新規自家HER2標的CAR-T細胞療法

● 第 I 相臨床試験を継続実施中

- 対象：HER2陽性骨軟部肉腫及び婦人科悪性腫瘍
- 治験実施施設：信州大学医学部附属病院



CAR-T治療フロー

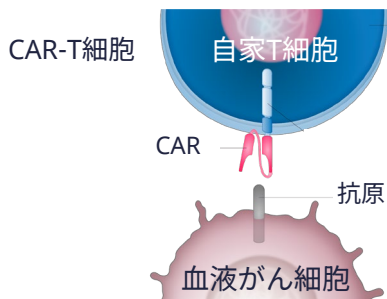


開発の目的：固形がんでも抗腫瘍効果を示すCAR-T細胞療法の開発

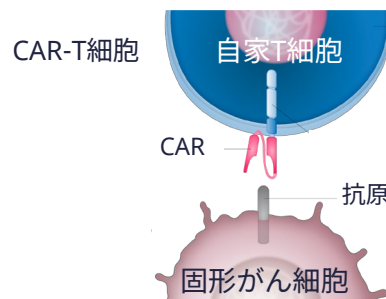
血液がん

固形がん

- 血液がん治療に革新をもたらしたモダリティ
- 承認薬＝臨床で検証された作用メカニズム



- 免疫抑制環境を形成する固形がんに応用



承認薬（血液がん領域）



固形がんのハードル

- CAR-T細胞が固形腫瘍組織の免疫抑制にさらされ、すぐに疲弊し無機能化

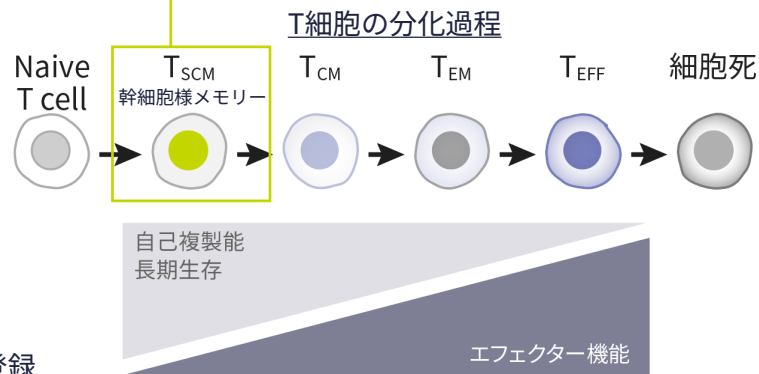
👉 解決すべき課題

解決策: 開発コンセプト

● 幹細胞様メモリーT細胞の活用

・免疫抑制的な固形がん腫瘍組織において、すぐに疲弊し無機能化することを免れ、がん細胞を殺傷し続けるCAR-T細胞

・分化をたどるT細胞の中で、若く自己複製能と持続性に長けた幹細胞様メモリーT細胞を多くCAR-T細胞として用いることができるように製造工程*を構築

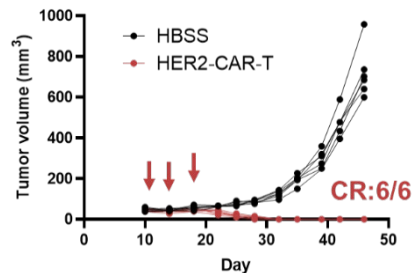


*製造法特許が、日本・中国・米国で登録

● 非臨床コンセプト確認

・ヒト卵巣がん細胞株 SK-OV-3 を移植した担がんマウスにおいて、BP2301投与により6匹の全てのマウスで腫瘍が完全に退縮し、再増殖しなかった

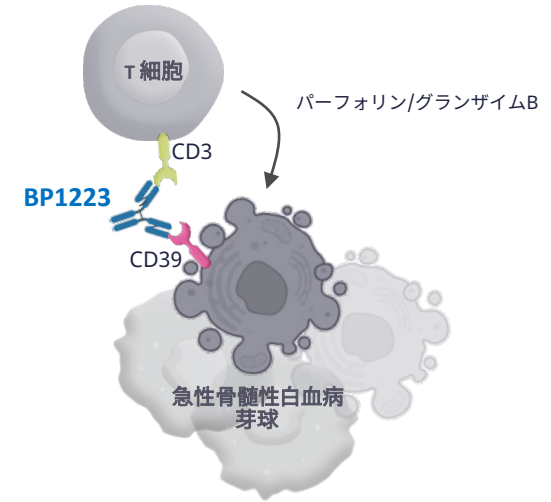
出所：ブライトパス・バイオ AACR2022



BP1223 (抗CD39 T細胞エンゲージャー)

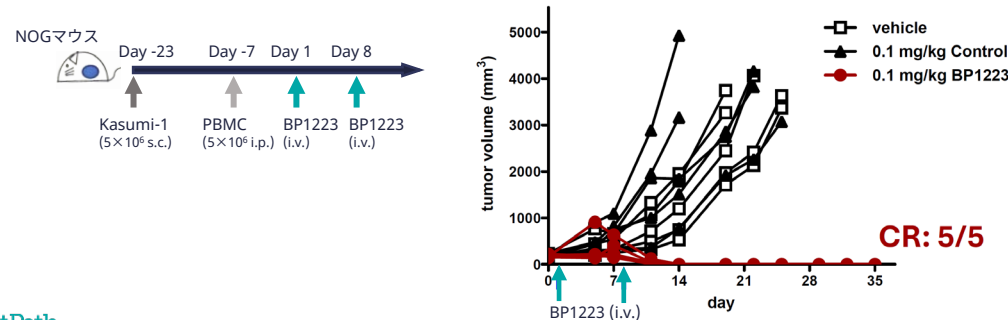
CD39を標的として急性骨髄性白血病芽球を直接傷害

- 急性骨髄性白血病 (AML, Acute Myeloid Leukemia) などの血液がん細胞上に多く発現するCD39と、免疫細胞であるT細胞上に発現するCD3の双方に結合する二重特異性抗体 (T細胞エンゲージャー抗体)
 - ・ がん細胞とT細胞を架橋することによって、CD3経路の刺激を受けて活性化したT細胞が、CD39を目印にがん細胞を排除
- CD39は初診および再発急性骨髄性白血病の標準療法Venetoclaxに対する耐性/治療抵抗性が増すとともに発現亢進してくる点が、これまでの開発品の治療標的となってきたCD123, CD33, CD47, TIM-3等と大きく異なる



急性骨髄性白血病マウスモデル試験

BP1223は単剤で5匹全匹のマウス腫瘍を完全に排除



BP1212 (抗CD39 × 抗TIM-3 二重特異性抗体)

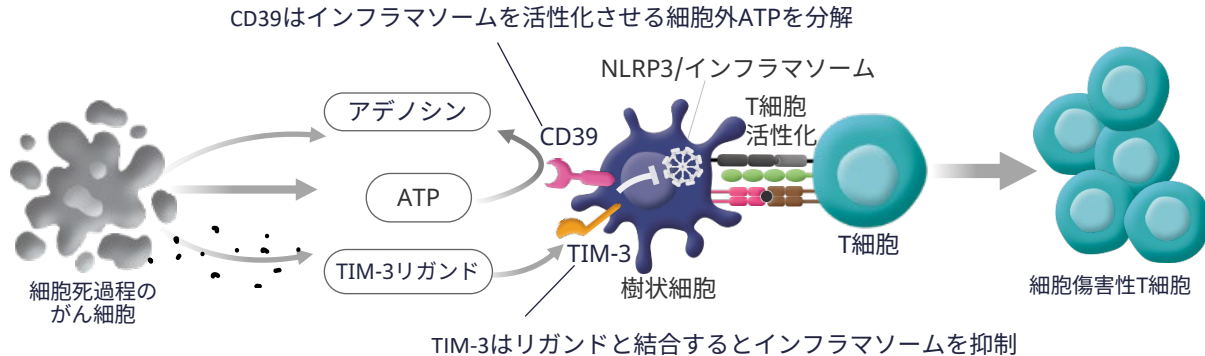
ファースト・イン・クラスのインフラマソーム(炎症性免疫反応を起動する細胞内センサー)誘導剤

- 腫瘍内の、CD39,TIM-3双方を高発現し抑制状態にある樹状細胞が標的

- 樹状細胞のインフラマソーム抑制を解除し活性化させることにより、樹状細胞の成熟化を促し、樹状細胞による抗腫瘍性T細胞の活性化を促進

* インフラマソーム: 炎症性免疫反応を起動する細胞内センサー

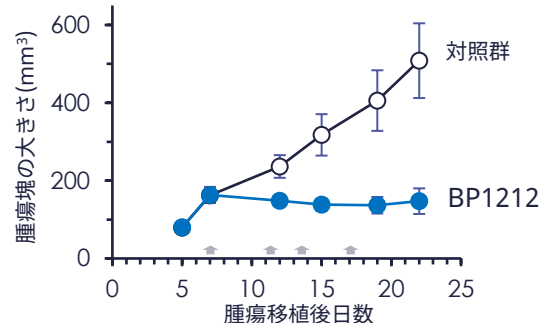
- 腫瘍内のみでインフラマソーム活性化



固形がんマウスモデル試験

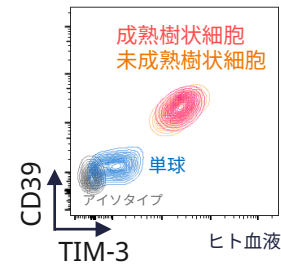
(CD39, TIM3ダブル・ノックインマウスを使ったマウスがん細胞株同種移植モデル)

BP1212は単剤で腫瘍の増殖を著しく抑制

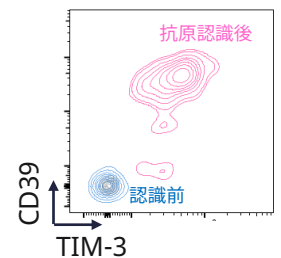


ブライトパス・バイオ IRCI 2025

樹状細胞



細胞傷害性T細胞



市場規模

■ 世界の多発性骨髄腫の患者数

- 年間罹患数(新規診断数) *1 :

187,952人 (世界)
32,258人 (米国)
28,593人 (欧州上位5ヶ国)
30,300人 (中国)
6,988人 (日本)

- 米国の患者数*2 :

5年有病者数	126,869人
治療中	105,701人
一次治療	56,959人
二次治療	27,252人
三次治療	11,258人
四次治療	5,217人
五次治療	5,015人

■ 世界の多発性骨髄腫の市場規模

- 2025年に292.4億米ドル → 2034年には497.9億米ドル
年平均成長率 6.1% (2026年-2034年) *3

出所 :

1. World Health Organization. Globocan (updated 8 Feb 2024): Multiple Myeloma.
2. An Epidemiology Model for Estimating the Numbers of US Patients With Multiple Myeloma by Line of Therapy and Treatment Exposure. Value Health.2022 Dec;25(12):1977-1985
3. Fortune Business Insights. May 2026

■ 多発性骨髄腫におけるBCMA標的の開発プログラム

モダリティ	開発企業	開発品	標的	開発段階	備考
自家 CAR-T	BMS	Abecma	BCMA	承認済み	
	J&J (Legend)	Carvykti	BCMA	承認済み	
	Gilead	anito-cel	BCMA	第III相	
	AstraZeneca	AZD0120	BCMAxCD19	第III相	
	BMS	BMS-986453	BCMAxGPRC5D	第I相	
他家 CAR-T	Roche	P-BCMA-ALLO1	BCMA	第I相	
	Caribou	CB-011	BCMA	第I相	
T細胞エンゲージャー	J&J	Tecvayli	BCMA×CD3	承認済み	
	Pfizer	Elrexio	BCMA×CD3	承認済み	
	Regeneron	linvoseltamab	BCMA×CD3	承認済み	
	AbbVie	etentamig	BCMA×CD3	第III相	
抗体薬物複合体 (ADC)	GSK	Blenrep	BCMA	承認済み	ボルテゾミブ+デキサメタゾン併用
他家 CAR-T		BP2202	BCMA	IND申請	iPS細胞由来NKT細胞

■ HER2は、多くのがん種で発現し、がん治療の標的分子として適格であることが臨床で確認されている

HER2発現がん種におけるアンメット メディカル ニーズ

がん種	罹患数 (千人) 日*1 / 米*2 / 欧*3	5年生存率 (遠隔転移有)	HER2陽性率*4
現在の臨床試験の対象	骨軟部肉腫	0.85 / na / na	15%*5
	子宮体がん	17 / 67 / 51	17%
	卵巣がん	13 / 21 / 30	16%
適応がん種の拡大余地	乳がん	93 / 284 / 271	28%
	胃がん	159 / 27 / 52	6%
	大腸がん	141 / 135 / 249	14-16%
	膠芽腫	1.8 / 9 / 12	10%

¹ 小児慢性特定疾病情報センター, Datamonitor Healthcare® | Informa, 2021

² American Cancer Society, Cancer Facts & Figures 2021;

³ WHO, Global Cancer Observatory, CANCER TODAY 2020;

⁴ Haffner et al. J Clin Oncol. 2021, Iqbal et al. Mol Biol Int. 2014, Wang H, et al. Cancer Invest 2014, Zhang et al. Int J Clin Exp Pathol 2016, Mason et al. Clin Cancer Res 2016, Ganti et al. modern pathology 2006, Liu et al. Cancer Res 2004, Grushko et al. Gynecologic Oncol 2008, Berchuck et al. Cancer Res 1990, Bartlett et al. Brit J Cancer 1996, Cronin et al. Cancer Invest. 2010, Gravalos et al. Annals Oncol 2008, Tu et al. Exp Ther Med 2018, Ang YL, et al. Crit Rev Oncol Hematol 2016, Ryan E, et al. Front Oncol 2020

⁵ 国立がん研究センター中央病院の治療成績 進行再発骨軟部肉腫例(2002年から2007年)の予後(集学的治療が実施された症例)

■ HER2標的CAR-Tの臨床開発品（固形がん）

モダリティ	開発企業	開発品	標的	開発段階	備考
自家 CAR-T	EXUMA	CCT303-406	HER2	第 I 相	HER2陽性胃・食道・大腸・乳がん等、deep PR 1/12例（胃がん）、Grade 2 CRS (1/12例)
iPSC由来CAR-T	Ono (Fate)	FT825 / ONO-8250	HER2	第 I 相	HER2陽性固形がん
自家 CAR-T	UTC Therapeutics	UCLE802	HER2	第 I 相	HER2陽性固形がん
自家 CAR-T	 BrightPath Biotherapeutics	BP2301	HER2	第 I 相	再発・進行骨軟部肉腫、婦人科がん

■ 急性骨髄性白血病における先行開発プログラム

モダリティ	開発企業	開発品	標的	開発段階	備考
T細胞エンゲージャー	Aptevo	Mipletamig	CD123×CD3	第Ⅰb/Ⅱ相	
	Molecular Partners	MP0533	CD33×CD123× CD70×CD3	第Ⅰ相	
	Gilead (MacroGenics)	MGD024	CD123×CD3	第Ⅰ相	Gileadは導入オプション(未行使)
γδTエンゲージャー	J&J (LAVA)	JNJ-89853413	CD33×Vδ2	第Ⅰ相	
CAR-NK	Senti Bio	SENTI-202	CD33 x FLT3	第Ⅰ相	
抗体薬物複合体 (ADC)	AbbVie	IMGN632	CD123	第Ⅱ相	芽球形形質細胞様樹状細胞腫瘍でFDA承認
	Byondis	BYON4413	CD123	第Ⅰ相	
	Kyowa Kirin	KK2845	TIM-3	第Ⅰ相	
抗体分解誘導薬 複合体	BMS	BMS-986497	CD33/GSPT1	第Ⅰ相	
モノクローナル抗体	Ipsen/ImCheck	IPN60340	BTN3A	第Ⅱb/Ⅲ相	
	Pfizer	PF-08046040	CD70	第Ⅰ相	
T細胞エンゲージャー	BrightPath Biotherapeutics	BP1223	CD39xCD3	非臨床	

■ 腫瘍局所で樹状細胞・抗原提示細胞を活性化し、抗腫瘍免疫を誘導する開発プログラム

モダリティ	開発企業	開発品	標的	開発段階	備考
モノクローナル抗体	Alligator	mitazalimab	CD40	第II相	転移性膵管腺がん
	Biocytogen	YH003	CD40	第II相	悪性黒色腫、膵管腺がん
融合タンパク質	Immutep	IMP321	HLA クラスII (LAG-3リガンド)	第II相	頭頸部扁平上皮がん、軟部肉腫
免疫刺激性抗体複合体	Bolt	BDC-4182	CLDN18.2/ TLR7/8	第I/II相	胃がん、胃食道接合部がん
	Daiichi Sankyo	DS3610	非開示/STING	第I相	進行固形がん
二重特異性抗体		BP1212	TIM-3xCD39	非臨床	

競争力の源泉

細胞医薬の経営資源・競争優位性

	方向性	技術的な資源・競争優位性	HER2 CAR-T (BP2301)	iPS-NKT (BP2201)	BCMA CAR- iPSNKT (BP2202)
1	幹細胞様メモリーT細胞によって 固形がんのハードルを克服する CAR-T	幹細胞様メモリーT細胞を集中的に 増殖させる製造技術	✓		
2	CAR-iPSNKTプラットフォーム展開	CAR-T技術 X iPS由来 NKT細胞 プラットフォーム		✓	✓

抗体医薬の経営資源・競争優位性

	方向性	技術的な資源・競争優位性	BP1212	BP1223
1	腫瘍環境改善による新たな抗腫瘍免疫作用メカニズム	アデノシン産生の阻害効率		
2	改変抗体	Fc機能強化		
3	二重特異性抗体	<ul style="list-style-type: none">免疫チェックポイント分子の徹底阻害二重の免疫チェックポイント分子経路阻害T細胞エンゲージャー	✓	✓

事業計画

2026年3月期 期初計画と実績の対比

(単位：百万円)

	期初計画 2025/5/9公表	実績	差異
売上高	0	0	0
販売費及び一般管理費 (研究開発費)	1,182 (865)	1,162 (1,002)	△20 (+137)
営業利益	△1,182	△1,295	△113
経常利益	△1,164	△1,293	△129
当期純利益	△1,166	△1,304	△138

前払金に計上してきたBP2202関連の研究開発の一部が予定より早く進捗したことに伴い、当初予定していた時期よりも前倒しで費用計上（41百万円）するものも含めた、研究開発費用の増加による

2027年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

	2026年3月期 実績	2027年3月期 予想	前年比
売上高	0	0	—
営業利益	△1,295	△1,965	△670
経常利益	△1,293	△1,947	△654
純利益	△1,304	△1,949	△645

研究開発費	1,002	1,680	① +678
-------	-------	-------	--------

① 前年度 前払金として計上され今年度 費用に振り替えられる、現金支出を伴わない333百万円を含む

資金調達

2025年度の直近の調達資金の使途

パイプライン進捗および新規パイプライン開発のための投資計画

第20回新株予約権発行
(2025年11月21日発行決議ー2026年3月4日全行使完了)
調達金額：1,684百万円

BP2202
他家BCMA CAR-NKT
(1,134百万円)

- ✓ 2026年度から米国で開始する多発性骨髄腫を対象とする第 I 相臨床試験
関連

新規パイプライン
(171百万円)

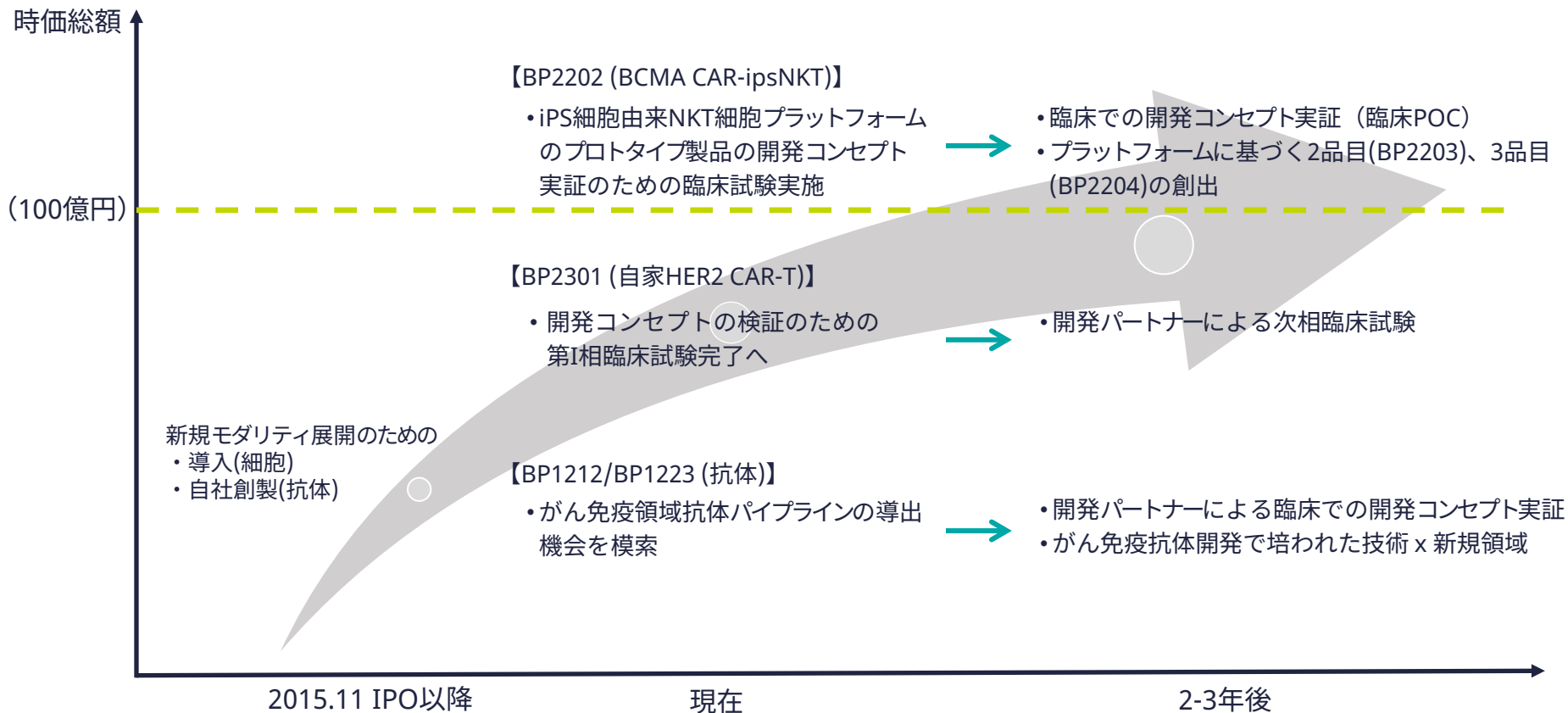
- ✓ 細胞又は抗体医薬品あるいはそれに近いモダリティ+がん免疫領域の周辺
領域を含む新規パイプラインの開発

その他事業運営資金
(379百万円)

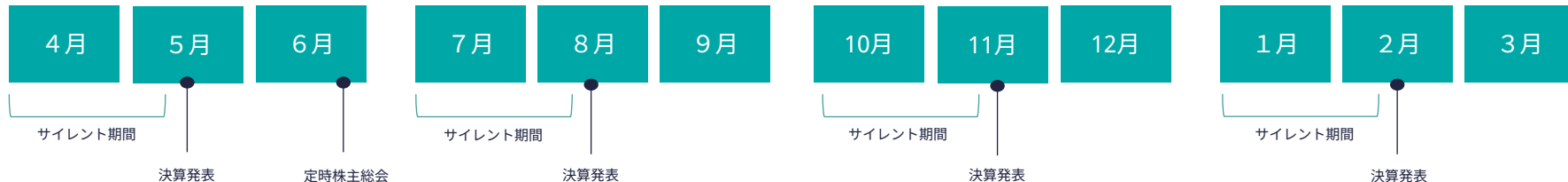
- ✓ 事業開発並びに研究開発推進の支援及び経営管理のための人件費、委託費、
地代家賃、事業税等

企業価値向上に向けた施策

2030年時価総額100億円以上を睨んだ今後の事業展開と成長イメージ



年度のIRイベント～情報発信の強化



決算説明会

- 機関投資家・アナリスト向けに年2回（5月・11月、ハイブリット形式）開催
・開催前に説明資料をHPに公表、開催後には動画をHP上で配信

株主向け会社説明会

- 株主総会後に開催
・開催前に説明資料、また開催後には質疑応答をHPに公表
・動画をHP上で配信

個人投資家向け説明会

- 証券会社等の主催による個人投資家を対象とした説明会（年に数回実施）
・社長が登壇し、事業概況の説明および質疑応答
・動画をHP上で配信

ワン・オン・ワン・ミーティング

- 国内外の機関投資家からの要請に応じて実施

英語による情報発信

- 海外投資家に対する開示の継続・充実
・決算短信
・研究成果の発表内容 等

その他情報発信

- YouTubeアカウント開設
・必要に応じて、研究開発の状況に関する説明や解説
・研究成果の発表内容
・株主通信 等

リスク情報

リスク情報

リスクの種類	リスクの内容	事業計画の遂行に与える影響	顕在化の可能性	顕在化の時期	対応策
新薬開発の不確実性	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品開発の成功確率が低いこと 技術革新がもたらす技術の陳腐化 	研究開発が長期化することにより、投資額が回収できず開発が中止となり、当社の事業、業績や財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。	中	中長期	外部環境を常に注視し、当社の技術を駆使して開発に取り組んでいます。
資金繰り	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発の期間は長期にわたり、また日本国内のみならず海外においても研究開発活動を行っていることから今後も多額の資金が必要 事業計画の修正を必要とする状況になった場合、資金不足が生じる可能性 研究開発推進等のための資金調達の方法として新株発行や新株予約権付社債などを発行する可能性 新株等発行した場合、1株当たりの株式価値が希薄化する可能性 	必要なタイミングで研究開発資金を確保できなかった場合は、当社の事業、業績や財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。	中	中長期	製薬企業等とのライセンス契約から発生する契約一時金収入、マイルストーン収入、ロイヤリティ収入を研究開発中のパイプライン及び新規パイプラインに再投資することを事業及び資金サイクルとしていくことを目指しています。
競合	<ul style="list-style-type: none"> 競合他社が開発する医薬品が先行した場合、競争力が低下する可能性 	開発の遅延又は中止となる可能性、ライセンスアウトしていた場合はライセンス契約解約の可能性又は上市後に想定した販売ロイヤリティが得られない可能性があります。	中	中長期	外部環境を常に注視して開発に取り組んでいます。

有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しています。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

リスク情報(続)

リスクの種類	リスクの内容	事業計画の遂行に与える影響	顕在化の可能性	顕在化の時期	対応策
特許	<ul style="list-style-type: none"> 出願中の特許が成立しなかった場合又は登録された特許権が無効化された場合 優れた技術が出現して、当社の特許が陳腐化する可能性 	当社の事業、業績や財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。また、出願費用・維持費用等のコストを回収できない可能性があります。	中	中長期	新たな技術の研究開発に取り組み、新規特許の獲得に取り組んでいます。また、定期的に他社の特許及び技術情報を調査しています。なお、当社のパイプラインにおいて、その実施に支障又は支障をきたす可能性のある事項は、調査した限りにおいて存在していません。
新型コロナウイルス感染症をはじめとする災害等の影響	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、当社の事業所及び研究施設並びに国内外の臨床試験・非臨床試験・製造委託先及び共同研究開発先社員等の罹患や移動制限・自粛等に伴う要員不足や原材料の納入遅延、並びに製造機能や物流・卸機能の停滞が生じる可能性 臨床試験施設において新規登録の一時中断や来院制限の措置が取られるなどした結果、臨床試験の遅延等が発生する可能性 	臨床試験施設においても感染拡現在進行中または新規に立ち上げようとしている臨床試験の遅延等の発生の可能性があります。その場合は、当社の事業、業績や財務状況等に影響を及ぼす可能性があります。	中	中長期	リスク情報共有会議を頻回開催し、当社の国内・海外の製造委託先、共同研究開発のパートナー及び臨床試験施設の状況確認やビジネスにおける影響等について、情報の把握と対応の検討、経営レベルでの議論と意思決定を行っています。

有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しています。その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください。

BrightPath_

Biotherapeutics